

スプレイギクの鉢物化に関する研究

第1報 さし芽時期とB-9処理方法

柴田 浩・水越 洋三・畠山 順三

(秋田県農業試験場)

Pot Flowering Culture for Sprays Chrysanthemum

1. Effects of herbaceous cutting time and B-9 treatment on growth

Hiroshi SHIBATA, Yozō MIZUKOSHI and Junzō HATAKEYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 は し が き

スプレイギクは、主に切花として栽培が行なわれているが、花色が非常に豊富で鮮かであることと、一つの茎に多数の花をつけ放射状に散開して咲く特性は、鉢物としての鑑賞価値も高いものと思われる。このようなことから、昭和56, 57年の2か年にわたり、スプレイギクの鉢物化の一環として、ピンクマーブル、アグロー、ゴールドントウキョウを用い、季咲きでのさし芽時期とB-9処理方法について検討した。その結果を報告する。

2 試 験 方 法

試験Ⅰ…さし芽時期とB-9散布時期について

(1) 供試品種：アグロー、ゴールドントウキョウ(1本植え無摘心)、ピンクマーブル(1本植え摘心3本仕立)

(2) 試験区構成 表(a)に示す。

(a)

区 No	区 名	B-9散布 時期と回数 (鉢上げ又は摘心後)				さし芽時期
		一週 間	二週 間	出 蕾 期	側伸 長 枝 期	
1	3回-a	○	○	○	—	6月22日, 7月7日
2	3回-b	○	○	—	○	
3	2回-a	○	○	—	—	7月7日, 7月23日, 8月6日
4	2回-b	○	—	○	—	
5	2回-c	—	○	○	—	
6	無処理	—	—	—	—	6月22日, 7月7日, 7月23日, 8月6日

(3) B-9処理：散布濃度200倍、ハンドスプレイで茎葉散布。

(4) 耕種概要：鉢上げ…さし芽後23日、摘心(ピンクマーブル)…鉢上げ後7日。

試験Ⅱ…B-9の散布時期と濃度について

(1) 供試品種：試験Ⅰと同じ。

(2) 試験区構成 表(b)に示す。

(3) 耕種概要：さし芽…7月30日、鉢上げ…8月16日、

(b)

区 No	区 名	B-9散布時期						B-9 濃 度
		定14 日 植後	10 日	20 日	30 日	40 日	50 日	
1	250倍20日間隔	○	—	○	—	○	—	○印 250倍
2	250倍出蕾期無散布	○	—	○	—	—	○	
3	150倍10日後250倍	●	○	—	○	—	—	
4	150倍20日後250倍	●	—	○	—	○	—	●印 150倍
5	150倍30日後250倍	●	—	—	○	—	○	
6	無処理	—	—	—	—	—	—	

摘心(ピンクマーブル)…鉢上げ後7日、B-9処理は、ハンドスプレイで茎葉全面散布。

3 結 果 及 び 考 察

試験Ⅰ：開花期は、いずれの品種も10月下旬から11月中旬であった。また、さし芽時期が遅いものほど遅れる傾向を示した。ただし、B-9散布による開花期への影響はまったく認められなかった。

草高についてみると(図1)、さし芽時期が遅い区ほど小さくなる傾向を示した。全体を通じて、抑制効果の高いB-9散布時期は、品種やさし芽時期によって多少の変動はあるものの、鉢上げ(無摘心栽培の場合)又は摘心後2週間目を中心とした時期にあると思われる。

一次分枝長(図1)は、No1, 4, 5区で小さくなる傾向がみられ、開張幅、草幅も同じ傾向を示した。これらの区は、いずれも出蕾期を中心にB-9を散布した区で、花房が円筒又は団子状になり、品質的に劣った。

花数は(図1)、さし芽時期が遅れるほど明らかに少なくなった。特に、8月6日さし芽のピンクマーブル、アグローでは、花数が10以下で花径も小さい品種であることから、ボリューム不足がめだった。

以上のことから、草高では8月6日さし芽でB-9処理、2回-a (No3区)、2回-c (No5区)が理想的であった。しかし、花数が少なく、ボリュームに欠けるなどのことから、7月中・下旬がさし芽時期として適当と考えられた。しかし、B-9の散布濃度、回数、時期に

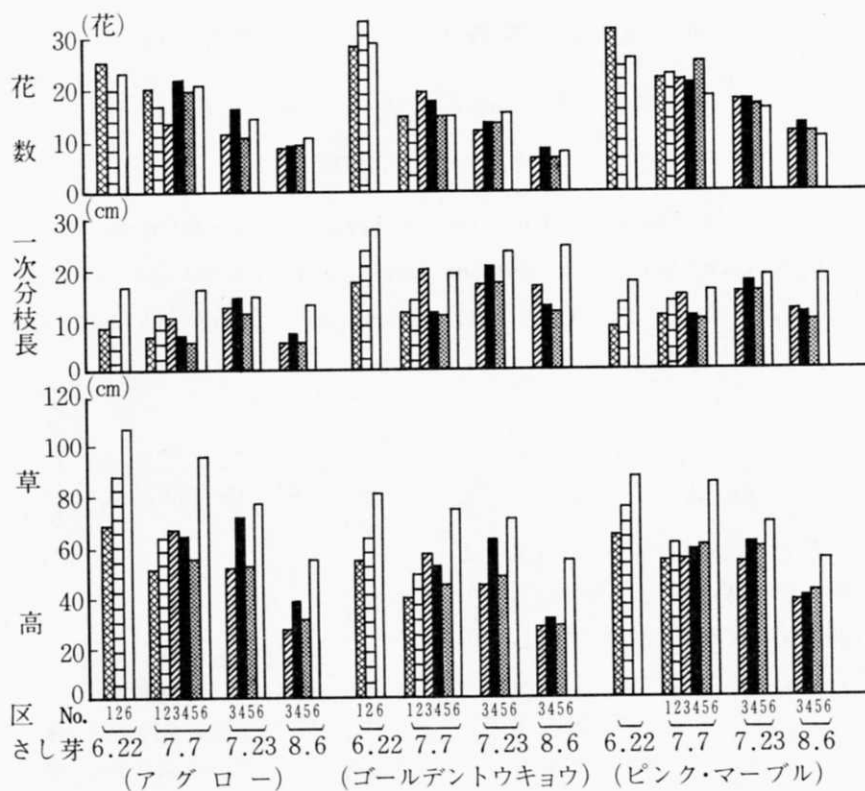


図 1 処理と鉢物形質

ついて更に検討する必要があった。そこで昭和57年に試験Ⅱを行った。

試験Ⅱ：草高についてみると(表1), ゴールドントウキョウ, ピンクマーブルでは, Na 3, Na 4 区(鉢上げ14日後150倍液, その後10~20日おきに250倍液を2回散布した区)で処理効果が比較的高かった。また, アグローは,

表 1 処理と鉢物形質

品種名	項目 区 No.	草 高 (cm)	花房幅 (cm)	一 次 分枝長 (cm)	総花数 (花)	花 房 型
ア グ ロ ー	1	39.9	15.3	6.3	14.9	A
	2	38.9	17.5	7.4	14.8	B
	3	39.7	16.1	6.6	14.6	B
	4	39.4	15.2	5.9	15.3	A
	5	41.8	16.1	5.9	13.9	C
	6	66.2	20.9	19.2	17.2	E
G ・ ト ウ キ ョ ウ	1	30.8	27.5	7.4	22.3	D
	2	29.9	27.1	6.7	24.9	
	3	26.2	25.0	6.9	18.7	
	4	29.1	24.5	8.7	16.6	
	5	33.2	28.2	8.7	22.0	
	6	62.6	37.9	19.8	21.0	D
P ・ マ ー ブ ル	1	37.5	26.4	7.6	15.9	B
	2	38.7	28.4	8.2	15.3	B
	3	33.6	24.4	6.7	14.6	D
	4	31.8	24.3	6.2	13.8	
	5	37.6	26.1	7.9	14.6	D
	6	56.1	33.9	13.3	14.0	



花房型 (正面図)

大きな差はないものの, Na 2~Na 4 区で処理効果がやや高い傾向を示した。

花房幅, 分枝長, 総花数などについてみると, B-ナイン散布方法のちがいによる差は小さく, また, 一定の傾向はみられなかった(表1)。

処理による花房型の変化についてみると(表1), ゴールドントウキョウでは, いずれの区でもD型(逆三角形)で理想的であった。

アグローの花房型は, 処理により微妙に変化するが, 全体的に丸型(B, C型)の団子状花房であった。アグローは, B-ナイン散布により丸型の花房になりやすい品種と思われた。

ピンクマーブルでは, 1茎の花房はほとんど丸型(A型)の団子状であった。しかし, 鉢全体でみるとNa 3~Na 5 区でD型の理想型であった。

以上のことから, 効果的なB-ナインの処理方法として, 活着後に150倍液その後10~20日おきに250倍液を2回散布するのが適当と思われた。

4 ま と め

スプレイギクの鉢物栽培(季咲き)のさし芽時期は, 6月下旬では矮化が難しく, 8月上旬では, 花数が減少しボリューム不足となることから, 7月中・下旬がさし芽時期として適当である。

B-ナイン処理は, 鉢上げ2週間後150倍液を散布し, その後20日間隔での250倍液の2回散布が効果的である。

本試験の仕立て方法では, 全体的にボリュームがまだ不足であるため, 仕立て方法の検討が更に必要である。